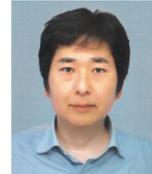


こんにちは どうぞよろしく



大久保特別出張所長
東 朋紀

4月1日付で大久保特別出張所長に就任しました。

「区民の皆様の役に立つ所と書いて、区役所と読む。」と、以前上司に言われたことがあります。常にどうすれば皆様のお役に立つことができるか、皆様を笑顔にできるかを考えて仕事をしています。

出張所は、地域の方の生の声を肌で感じることができますので、地域の発展と皆様の幸福を向上させるためには一番めぐまれた場所です。そういった環境で大久保通りの混雑、ごみ、騒音の問題など、地域の方が困っていらっしゃることを、一つひとつ丁寧に、工夫を取り組んで参ります。

休日は、最近は釣りをしております。春は多摩川で手長エビを釣ります。素揚げは本当においしいです。また、家から東京湾が近いので、船に乗ってアジ、マダコやキス釣りに行ったりしております。釣りに夢中になると料理もできるだけおいしく作りたいと思い始め、包丁も色々揃えました。さらに、包丁の研ぎ方教室にも通い、魚の身を崩さずおいしい状態でいただくための技術を習得中です。いつか釣った魚の料理を通じて交流できたらいいなと思っております。

大久保地域センターで開催される五月まつりでは、地域の方々が久保のまちの好きところを沢山書いて柱に貼っていらっしゃいました。いつまでも大久保のまちが好きと思いつけられるように、職員一同、力を尽くします。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



行事予定

秋をみんなの発表会
レッツゴー!
大久保地域センター
2024
11月16日

- ※日本とインドの舞踊体験 令和6年10月 6日(日)
- ※手づくり味噌教室 令和6年11月26日(火)
- ※日本の音曲あれこれ 令和7年 1月19日(日)
- ※世界を味わう講座 令和7年 2月 予定
- ※花の生け方教室 令和7年 3月 予定

行事は変更になることがあります。

日本文化を楽しむ

盆踊り教室 7月21日(日)



♪元気に踊る♪
花のみや〜へのまん中でさて!

手打ちうどん教室 8月5日(月)



こねて!こねて!こねて!
美味いうどんができました。



イベントニュース

怪談話 「朗読会」 8月25日(日)



演目「耳なし芳一のはなし」「おじな」「過去が届く午後」「やみあかご」



出演:あるていすと(戸山朗読会)

編集後記

前号につづき「大久保風土記」に明治時代のおおくぼを取り上げてみました。

問い合わせ TEL 03(3209)3961
大久保地域センター FAX 03(3209)3962



4階 わいわいひろば



どれにしようかな!



縁日ひろば
お菓子をもらおう!



子ども達であふれかえった
「五月まつり」
参加者 2200人

2階 えほんのよみきかせ
大久保図書館



みんなで風船作りに夢中



アンケートコーナー
いつもありがとうございます



サッカーボウリング
何本たおせたかな



千本引き
何が引けるかな



レストラン
お食事もできます



折り紙教室
うまくできるかな



お茶席
きものついでいな



着物の試着
着付けうまくできたかな?

1階 おまつりひろば



フラックフルト
何を食べようかな



わたあめ・かき氷



小さな消防士さん
いつも消防士さんありがとう

3階 わくわくひろば



いつもがんばっています。



血管年齢は?ドキドキ



「この街の好きなところ・よいところ」アンケート

「五月まつり」では、10歳未満から90歳代までの大勢の方にアンケートの回答をいただき、ご協力ありがとうございました。

「好きなところ」ではいちばん多かったのは、「公園」でした。年代を問わず、遊んだり、散歩したり、緑が多くのどか…等。特につつじが沢山あると答えられた方が多かったのが印象的でした。

次は、「地域センター」という回答でした。イベントでの楽しみは10歳未満の方、食事会の楽しみは高齢者の方と、年齢に関係なくこの施設を楽しくご利用いただいていることに感謝です。

「よいところ」では「いろんな店がある」が一番でした。かわいい店、美味しい店、韓国料理店等様々な店があり便利にぎやか。また、多文化があるという声もありました。

次に「やさしい」との回答でした。親切・笑顔・元気などもあり、街が活発な様子に思えます。また、「ゴミがなくてきれい」などの回答もいただき、町会・商店街・ボランティア団体などの定期的な活動の結果が皆さんに評価されたのだと嬉しく思いました。



委員研修会

「大久保地域の変遷を振り返る」

講師 稲葉佳子（まち形成史研究家）

これまで地域センター管理運営委員会では地域の外に出て、今回新札になった渋沢栄一記念館や本所防災センターなどで研修を行って来ましたが、今年度は内側を見つめる研修会を行いました。10年ほど前から広報でも取り上げてきた歴史から見る大久保、そして多国籍タウンと呼ばれ、3人に1人が外国人であるという現在の大久保へのプロセスについて学びました。同じ街に住む住民として私達はこれら多国籍の人々はどう関わっていったらよいか改めて考えさせられました。

この研修をこれから始まる多文化交流事業に生かしていきたいと思えます。



③シネシティ広場にある歌舞伎町建設記念碑



⑩稲荷鬼王神社の水鉢



⑨「島崎藤村旧居」の碑

第2次大戦後焼け野原になった西口に、よしず張りの屋台から始まった思い出横丁は、再開発の波に揉まれながら、形を変えて今も60店の飲食店が営業を続けています。横丁の中を抜けて歌舞伎町に向かいました。かつて区民にも親しまれていたミラノ座前、噴水のあった広場は、シネシティ広場という新しいネーミングで呼ばれることになり、ミラノ座あとには巨大なビルが建設されました。東急歌舞伎町タワーです。



①馬水槽

集合場所の新宿駅東口にひっそりと立っている馬水槽は、ロンドン水槽協会から寄贈され、一九〇六年に東京市役所前に設置されましたが、その後一九六四年現在地にモニュメントとして設置されたとのこと。地下道を通って西口に向かいました。

第1回の新宿歴史・文化探訪が大久保地域、という時宜を得た企画に早速応募しました。60人募集のところ、応募者多数で抽選だったのですが、幸運にも参加することができました。15人ずつ4つの班に分かれ、それぞれに4人の歴史博物館 史跡ガイドボランティアの方が説明に当たりました。

新宿 大百歌を歩く

（大久保・百人町・歌舞伎町界隈）

歴史・文化探訪



- ①馬水槽【区指定有形文化財 工芸品】
- ②新宿西口「思い出横丁」
- ③シネシティ広場 東急歌舞伎町タワー
- ④歌舞伎町弁財天
- ⑤新宿区役所
- ⑥新宿遊歩道公園「四季の路」
- ⑦新宿「ゴールデン街」
- ⑧花園神社【区指定有形文化財 彫刻】
- ⑨島崎藤村旧居
- ⑩稲荷鬼王神社【区指定有形文化財 彫刻】
- ⑪小泉八雲終焉の地【区指定史跡】
- ⑫小泉八雲公園
- ⑬西大久保公園
- ⑭つつじ通り
- ⑮楽器のまち
- ⑯百人町七通り
- ⑰音中稲荷神社



④歌舞伎町弁財天

広場の裏手、かに川の水源地と言われているあたりに歌舞伎町弁財天が祀られていました。歌舞伎町に弁天様？と不思議な感覚を覚えますが、上野寛永寺の不忍弁天から勧請されたそうです。区役所前を抜けて、四季の路、と呼ばれる元都電道跡に作られた遊歩道を抜けて、ゴールデン街に出ました。狭い路地に戦後そのままという木造3階建ての飲食街がありました。小さな店は著名な作家やエンターテイナーなどの憩いの場所として有名になった所です。



⑪「小泉八雲終焉の地」の碑



←小泉八雲公園内にある小泉八雲像

大久保通りの人混みをかき分けて、新大久保駅に着きました。線路に沿って走る72号線は、二〇二〇年に全線開通し、かつてつつじの名所であったことから、つつじ通りの愛称で呼ばれています。またこのあたりは戦前外国人を含めた多くの音楽家が住み、「音楽のまち」「楽器のまち」として有名でした。今でも海外から著名な演奏家が楽器の修理のため訪れるそうです。

一五三三年にこの地に鎮座して大久保の鎮守となったと言われる皆中稲荷神社は、鉄砲隊で知られていて、隔年の秋季例大祭に於いては「区登録無形民族文化財」である鉄砲組百人行列を行っています。

大百歌を歩く「新宿の歴史・文化探訪」は、みなあたる「皆中稲荷神社」で解散しました。

主催 新宿歴史博物館



※戸山ヶ原（明治時代）

大久保風土記

明治時代

“のどかな” おおくぼ

今では想像もつきませんが、明治時代の大久保は、武蔵野の入口とされていました。鶯が鳴いて、茅葺屋根の民家の周囲に田畑が広がり、湧き水で野菜を洗う風景が見られるような、のどかな農村。実際、昭和7年に東京市に編入されるまで、大久保は東京市外、つまりは郊外だったのです。



※小泉八雲西大久保邸

明治40年前後には、この静謐さに惹かれて、小泉八雲、島崎藤村、国木田独步、前田夕暮、戸川秋骨、水野葉舟、岩野泡鳴、遠藤清子などの文学者が集まり、「大久保文士村」と呼ばれるほどでした。とりわけ彼らが愛したのが戸山ヶ原です。今の久保三丁目、そして、山手線の西側の百人町三丁目、四丁目に渡る、東京ドーム14個分という広大な野原。ここが戸山ヶ原と呼ばれるようになったのは、明治7年以降、今の戸山公園箱根山地区に陸軍戸山学校が作られて、その東側のこの一帯が次々と陸軍に買い上げられてからです。丘があって雑木林があり、小川も流れ、キツネやタヌキも生息していたといいます。散策はもちろん、運動や写生の場としても人々に親しまれていました。多くの画家たちも戸山ヶ原を描いています。



現在の久保駅
当時は高架ではなく列車は地上を走っていた

一方で、大久保には都市化の波が押し寄せていました。明治28年に大久保駅が、大正3年には新大久保駅が開業し、市電も開通します。市内への通勤が可能となり、文学者たちが移ってきた頃には1万人にも満たなかった人口も、関東大震災の起きた大正12年には3万人を超えました。戸山ヶ原にも、新しい軍事施設が作られていきます。

文学者たちも、ひとり、また、ひとりと、大久保を離れていきました。彼らが集まっていた明治40年前後が、大久保が武蔵野の入口だった最後の時代かもしれません。



大久保風土記